

## 2025年度ブルーカーボン量（ベースライン）

宿浦 春藻場

### 根拠1（Before-Afterの比較）

三重県南伊勢町宿浦地区のうち、水深10m以浅、岩礁もしくはブロックが基質の箇所を活動区域として選定。

活動前に地元漁業者による聞き取り及び活動前のモニタリングにおいて対象活動区域での海藻類の繁茂が確認されていない区域を活動区域として選定。

葛島（かつらじま）：2015年プロジェクト開始、当初南側を活動していたが、2017年より北へ活動区域を延長した。

逢原島（おばらじま）2016年よりプロジェクト開始。

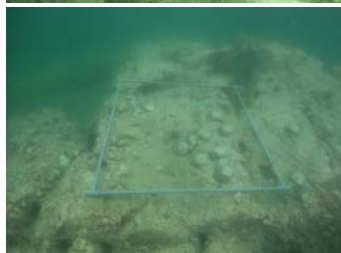
禁漁区：2017年よりプロジェクト開始。

● モニタリングポイント

プロジェクトを実施している区域の  
プロジェクト活動開始時の状況



葛島北 2017/5/28  
海藻被度 0 %



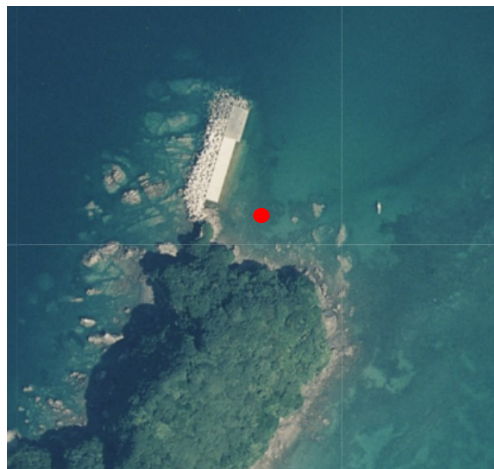
葛島南 2015/6/16  
海藻被度 0 %



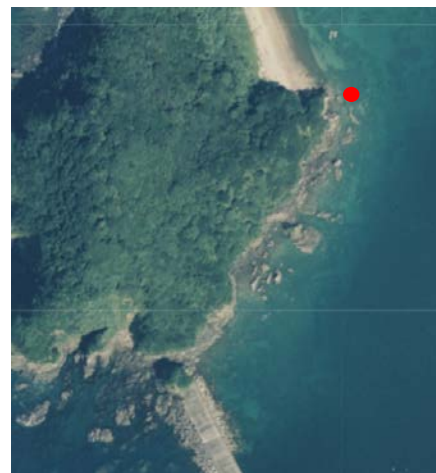
逢原島 2016/5/21  
海藻被度 0 %



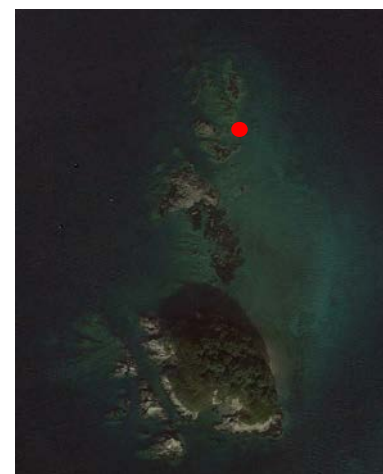
禁漁区2017/9/30  
海藻被度 0 %



葛島北 2008年（プロジェクト以前）  
航空写真（地理院地図より）



葛島南 2008年（プロジェクト以前）  
航空写真（地理院地図より）



逢原島 2016年2月（プロジェクト以前）  
航空写真（Google Earthより）



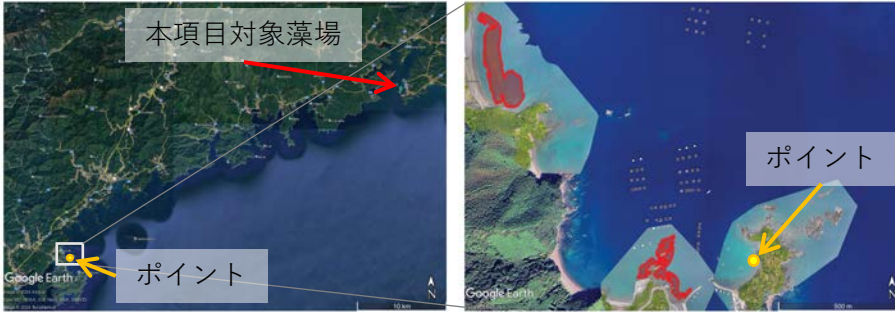
禁漁区 2008年（プロジェクト以前）  
航空写真（地理院地図より）

2025年度ブルーカーボン量（春藻場ベースライン）

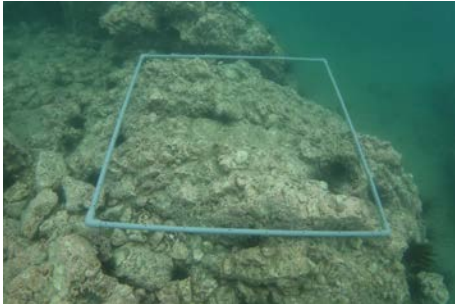
根拠 2（Control-Impactの比較）

本プロジェクトの活動開始から現在までの期間において、本項目と同様の熊野灘地域の一部のポイントにおいて、一時ウニ類駆除活動により海藻類が繁茂したが、その後当該ポイントで駆除活動を行わない期間を設けところ、再び海藻類が無くなった。

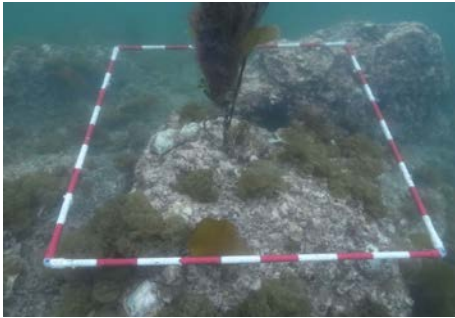
根拠1, 2よりプロジェクトの活動により藻場が維持・回復していると推測され、プロジェクトを実施しない場合、藻場が消失すると考えられることから、ベースライン 0 とする。



プロジェクトを実施ししないと磯焼けに戻る状況  
撮影場所はすべて同じポイント（右上図中のポイントに該当）における経年変化



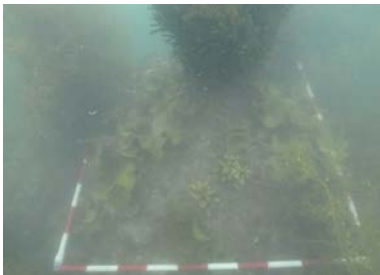
2016/5  
海藻被度  
0%



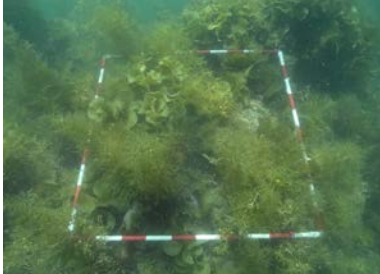
2017/5  
海藻被度  
20%



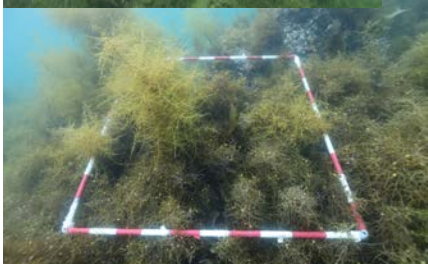
2018/5  
海藻被度  
65%



2019/5  
海藻被度  
50%



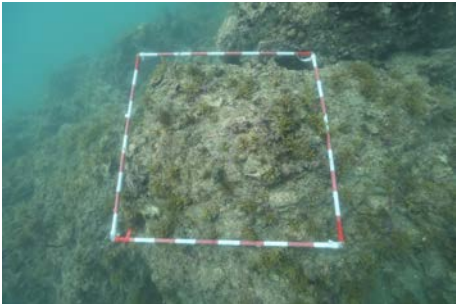
2020/5  
海藻被度  
95%



2021/5  
海藻被度  
85%



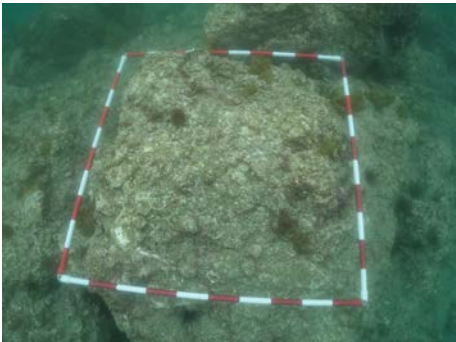
2022/5  
海藻被度  
70%



2023/5  
海藻被度  
35%



2024/5  
海藻被度  
5%



2025/5  
海藻被度  
5%

※主な確認種はオバクサで、吸収量算定の対象としていないものである。